

第31回 定期総会・入塾式

平成 15年 9月 1日(金) / 場所:名古屋市民会館中ホール

催事レポート

テーマ

『ブレイクスルー 飛躍への挑戦』

創塾 30周年を経て、今、新たなる歴史が始まるようとしている。ステージ中央には幻想的な光が浮かび上がり、スクリーンにはハイテクを結集した映像が流れ、定期総会・入塾式の幕が上がった。

初めに、今期発足する 36・37・38 塾総勢 176名がステージに立った。新塾長のご挨拶、そして新塾生代表の決意。その言葉に同感し、千日修行に臨む新塾生達。会場には、生々しさと気迫にみちていた。

続いて遠山塾主より、「石の上にも30年」というお言葉を頂いた。一年一年を積み重ねる事により迎えた30年、青経塾も世の中に認められるようになった。自分自身も一歩一歩着実に精進していく想いを新たにしました。

引き続き各部門報告が行われた。30周年記念行事の報告では、当時の様々な事が鮮明によみがえる。

そして、総会アクトが始まった。第31・32塾によるストンプ。会場内には凄まじい気迫がただよび、一人一人が真剣勝負。2本の棒にこめられた感謝と希望を感じた。一糸乱れない



演技は、全員がひとつになり卒業するという覚悟を決めている姿に見える。三年目の先輩方には何一つ迷いは無いと感じさせられた。



大宇宙をイメージした舞台の上に遠山塾主の姿がある。優秀賞・遠山賞の授与式が行われる瞬間、会場は水を打った様に静まり返り、緊張の中、発表が始まる。受賞者の名前が次々と読み上げられステージ上に立ち、一人一人が満面の笑顔を見せていた。

最後に、私は青経塾に入塾し、友情・感動・情熱などの大切さを身をもって感じとることができた。卒業までのあと2年間、初心を忘れる事なく、千日修行に励む決意を新たにしました。

< 第33塾 鈴木広行 >

第31塾 長岡研修

平成 15年 10月 3日(金) 4(土)

研修レポート

テーマ

『礼をつくす』

「礼をつくす」のテーマのもと、塾主と横山副塾頭をお迎えして、我々は長岡へと旅立つこととなった。その結団式で、塾主より「青経塾は、レディファーストの塾である。女性を後ろの方に押し込んでおいてどうするのか。女性に配慮してあげなさい」と一喝される。

「礼は、そこにいる全ての人に向けられなければならない」、そう教わった瞬間だった。

塾生は、この旅に於いて、塾主を見続けた。一点集中で、皆が結束していた。朝日山にご同行頂いた塾主を前にして、大杯に並々と注がれた酒を塾長一人で一気に飲み干した。酒に負けまい、自分に負けまいとする「覚悟」をそこにいる皆に指し示した。まさに、これこそが塾主に対する「礼」であった。それが、金岡正和の決意表明へとつながった。「俺が勝つということは、誰かが負けるということだ。でも俺は勝つ。去っていった塾生の方も必ず勝つ。そして、ここにいる全員で、勝って卒業する」皆、胸が詰まった。泣いた。我々は、常に過去の上に存在する。

過去の犠牲を乗り越えて我々が生きている。多くの長岡藩士が倒れていったこの地で、彼らの命がけの魂が我々の



気持ちにオーバーラップした。「一生懸命、今を生きよ」という塾主の言葉がこだまする。そして、最後に朝日山に眠る多くの精霊に聞けとばかりに、塾主を始め全員の塾生が「やるぞ〜」の声を発した。きっと、そこにいた全員が、ひとつの気持ちになった瞬間だったのではないだろうか。

いつも壇上に立っていらっしゃる塾主が、我々の傍らにいて下さった。我々塾生の魂を感じて、共に叫んで下さった姿が忘れられない。

< 第31塾 村瀬雄三 >